全国地域婦人団体連絡協議会
全国女性団体連絡協議会

いま、かがやいて活動している女性たち ぐっとアップ！

2026 11 NO.581

編集・発行　全国女性団体連絡協議会　〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-17-14
電話 03-3407-4303（代）　https://zenjo-kai.jp
共催：全国女性会館

プロジェクトの趣旨に賛同し、野菜の消費拡大に取り組みます。

野菜を食べようプロジェクト　検索

1DAY 350g 野菜を食べよう プロジェクト

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

食品ロス削減国民運動のロゴマーク「ろすのん」

NO-FOODLOSS PROJECT

私達はこの運動を推進します！

アースエコ

プラスチック資源の削減、リサイクルの促進で CO^2 排出を減らし、地球環境保全に努めます。



九州大学 次世代リーダー研修開催報告

8月8日、9日、9月5日、6日の4日間に開催したリーダー研修は盛況のうちに幕を閉じました。ご協力いただきました九州大学ならびに先生方、職員の皆様に厚くお礼申し上げます。8月は台風被害、地震被害の影響で急遽参加できなくなった方もいらっしゃいましたが、9月は多くの皆様に参加いただきました。ありがとうございました。いずれの研修でも多くの質問が寄せられ、参加者の熱意や意欲が強く感じられました。この研修が今後の皆様の活動の糧となることを期待しています。そして、学ぶことの重要性を認識し、前向きな意思を持って地域の次世代リーダーとして大きく羽ばたく事を祈念しています。



9月6日 第1講義　櫻井よう子全国女性団体連絡協議会会長の講義から一部抜粋



みなさんおはようございます。昨夜は楽しかったね。ここに来た皆さんに最初に言いたいのは財産について。財産とは何か？なんだと思う？財産とは金でもなければ、物でも土地でもない。「人」です。ここに来た皆さんは、こういう研修があるという情報をどこかでキャッチして、自分で判断して、ここに来るという行動をとれる人たちです。ここへくるって勇気がいることですよね。宗教団体じゃないかと思って、途中でギアがバックに入っちゃった人もいるようですが、もったいないことです。宗教をやっている人はそれを一生懸命やればいい。でも女性会は宗教団体ではありません。自分をきっちり磨く。勉強する。奥を深める。交友関係を広げる。自分が信頼する、尊敬する人を作る。そういうことを目標にしている社会教育団体です。だからね、同じような考えを持った仲間をどんどん増やす。それに気が付かない人を1人でも2人でも増やしていく。こういう動きが元になっている組織です。

先月の研修で総長が大変喜んでいたのは、18歳の大学生では質問の手が上がらないのに、ここに来ている40代50代の女性たちは時間切れになるまで質問がでること。女性も40歳を超して子供が何人か産まれたり、親を見送ったりすると、いろんなことに対して疑問を持ったり、熱い思いになったり、そういう風になっていきます。これは止められない。そういう感情が全然わからないって人は、冷たい人だと思う。冷たい人は周りに人が寄ってきません。人に好かれる要素を持たないと、生まれてきた甲斐がない。

理想を言えば、器量もよくて、学力もあって、人間愛が溢れているっていう女性になってほしいと思います。器量はね、メイクの練習をしたり、スキンケアに力を入れたり、どんな笑顔をすれば自分が一番魅力的に見えるかを研究したり、努力できる部分はたくさんあると思います。学力は、こうした研修に積極的に参加することで、今まで知らなかった、わからなかったことが見えてきたり、さらにそこから湧いた疑問を追求するようになったり、こういうのがあったらいい

（2面に続く）



九州大学女性リーダー研修 講義内容 一部抜粋

（1面の続き）

ねっていうようなものを開発して世の中に出して、ちゃんと生産して利益を出して納税してとなったら言うことはないです。そういう女性たちが増えてこないと社会は発展しません。

最後の人間愛については、まずは自分の子供に自立して自分の足で立てる、歩いていける、生きていけるための教育をすること。自分が稼いだお金を、子や孫に残すことは考えないでください。自分が生きているうちに、自分のためもしくは社会のために使い切ってください。遺産というお金を残すことで、子や孫の自立の妨げになります。次に様々な価値観を持つ人と接すること。自分の人生は1回きりです。その人生の幅を広げるためにどんな人と接するかは、全て自分の判断、責任です。40代でも50代でも、その人の運命ってあるので、ある日パタっと倒れるかもしれない。昔は80になったら長生きしたねって言われましたが、今は100まで生き抜いたら長生きしたって言われる。画期的な医療が進んで健康寿命も伸びていますが、それでも人間は一人じゃ生きられない。ここが面白いところです。人生の中で自分とまるっきり違う人もいます。でもそういう人だから大事なんです。大事にしなきゃいけません。それで、仲良くしなきゃいけません。そういう思いを40代、50代の女性たちには持ってもらいたい。と言うことで、私のようなヘンテコな女性もやっぱり有効なんです。

さて、今回皆さんが講義を受けているこの講堂ですが、建設費60億円と聞いています。全て卒業生の寄付で賄われているそうです。そんな優秀な卒業生を輩出している九州大学に大手を振って入り込み、貴重な講義を聞き、修了証書まで頂けるのはなぜでしょう？それは皆さんを歓迎してくれて、日本の国の中で皆さんのような40代50代の女性たちは、もっともっと輝いてもらわなきゃ困ると思っているからです。皆さんは国の財産なんです。自分で「私は国の財産」だって思い込まなきゃダメですよ。錯覚でもなんでもいいので、そう思い込んでください。私たちのしていることはまだまだ小さいですが、いつか60億の寄付ができるようになれるよう、もっともっと磨きをかけていきましょう。





「ひろがる医療の未来」
9月5日　第1講義
工藤 孔梨子（くどう くりこ）
九州大学病院講師

九州芸術工科大学芸術工学部卒業後2010年、九州大学大学院で博士課程を修了。専門だった芸術工学から医療分野に転身。2011年に九州大学病院アジア遠隔医療開発センター学術研究院、2017年に助教に着任。現在は九州大学病院国際医療部アジア遠隔医療開発センター副センター長・講師として研究教育を牽引。専門は遠隔医療とデザイン。情報通信技術を活用した遠隔医療の技術支援から教育まで幅広い研究を展開。

今日のお話は、まず遠隔医療、そして私のもともとの専門がデザインでしたので、そのつながりと、これから広がる医療の未来について私の取り組んでいることや考えを紹介させてもらえればと思います。

皆さん病気になったことはありますか？もちろんありますよね。病気になったときは基本的には病院に行くと思います。日本は医療大国と言われています。日本にはたくさんの病院があり、どこの病院に行っても医療費が変わらないですよね。医療において差が出ないよう皆保険制度というものができていて、すごくいい環境で医療が受けられます。これは当たり前のことではありません。世界ではお金持ちの人が高いお金を払ってすごくいいサービスを受けるのと、そうじゃない人がたくさん並んでやっと受けられる医療というように差が出てきています。

こちらは世界保健機構（WHO World Health Organization）が出している資料です。様々ながんがありますが、胃がんの部分を見てください。世界では胃がんの罹患率と死亡率がかなり近い値になっています。一方日本は罹患率は高いのですが死亡率は3分の1かそれ以下です。こうした差をなくすこと、理想の未来としては、世界のどこにいても質の高い医療を受けられるようになるため、遠隔医療の研究は進められています。

遠隔医療を簡単に言えば「通信技術を使って離れたところから健康と医療を支える取り組み」です。遠くにいるお医者さんと患者さんがスマホなどで診療を受ける「オンライン診療」。地方の患者さんを都心の先生がロボットを遠隔操作して手術する「遠隔手術」。医師同士をつなぐ「遠隔相談・遠隔診断」。リアルタイムで行われている手術の手技や動きを丸々全部見られる「ライブ配信」など、様々な方向で研究が進んでいます。そして私たちのターゲットは国際的な医療格差です。日本や韓国では、消化器のがんは、早期発見できれば内視鏡手術をして、患者さんの回復も早く、職場復帰もできる、お金もそれほどかからないですみます。しかし、世界の様々な国では、がんがもっと進行した状態で見つかってしまうので、外科の手術で状況がとても悪いということになります。とにかく早く見つけて処置をするということが、本当に大事なのです。

２０２２年に日本が支援して建てられたモンゴルの大学病院に伺いました。最新の腹腔鏡という外科手術の機械が導入されましたが、現地のドクターは使い方がわかりません。そこに私たちチームが行きまして、多くの診療や手術をしました。現地ドクターのトレーニングと現地の患者さんを助ける活動で大変でしたけれど、やりがいのある活動でした。初の腹腔鏡手術を行った時には、情報を得てモンゴル全土から80名ものドクターがライブ配信に集まってくれました。モンゴルは広大な土地に３００万人しか人口がいない国です。日本の人口規模に換算すると１万人の医者が来たほどのインパクトがあることでした。

こうした遠隔医療ができるようになったのは、ネットワークの進歩によるものです。言葉や文化、経済感覚や時差など様々な問題を乗り越えてネットワークを樹立するのは大変なことでしたが、一つ一つの問題を越えるごとに遠隔医療の技術者が世界中に育ち、世界中でワンチームと呼べるチームができたように思います。これからは、3次元オンライン空間、サイバー世界を活用した遠隔医療が発展していくことが予想されます。

ここからは私の専門としている医療とデザインの話になります。私はもともとバーチャルリアリティや3次元オンライン空間を利用したゲームを作る研究室を卒業したのですが、たまたま卒業後は医療の方にまわってしまったので、ずっと病院で映像について研究をしています。「デザイン」とは「科学技術と感性を融合させた学問分野で課題解決が得意」とされています。実際、医療現場の問題をデザインで解決できることはたくさんあると感じています。例えばアメリカの事例で、出産後のお母さんが赤ちゃんのケア方法を看護師さんに教えてもらうのですが、その内容が多岐に渡るので、どうしても看護師さんの時間が取られてしまいます。解決のためのカードを作り、わかりやすく説明を添えてボードにしたところ、お母さんからの質問が60％も減りました。日本では学生の発案で小児医療のために「ホスピタン」という図鑑やゲームを作りました。子供にとって不安を覚える処置室や手術室、医療機器をキャラクターとして事前に楽しみながら見ることで、「なんか見たことある場所だ」みたいな感じでちょっと心の障壁が取り除かれるというものです。こちらは大きな賞を受賞し話題になりました。

今後の医者に求められることの一つに情報科学技術がある一方で、医療がどれだけ技術で変わったとしても、結局信頼できるお医者さんを見つける、そしてそこにたどり着けるというところが全然変わらないんじゃないかと言われています。患者さんが主体となって、お医者さんと一緒に治療方針を決めるというところが重要と言われているので、やっぱり形式的なところじゃなくて感性的な側面が重要になっていると言われてきています。医療は文明の進歩とともに変化してきました。近年デジタル技術の革新は医療の質の向上や格差の縮小、業務の効率化などあらゆるところで進んでいます。特に生成ＡＩの急速な発展と普及は、医療プロセスの多くにＡＩが関与する未来を予感させており、それに伴い医学教育で求められるスキルも根本からの再定義を迫られています。このような時代に共感力、身体性、創造性、不確実性への耐性、そしてチームワークといった人間ならではの資質を養うべく、芸術や人文学と医療教育との連携が求められています。

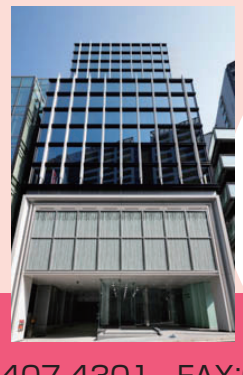


「子どもが生きる学校という環境
～小学校の日々を共にするフィールドワークから」
9月5日　第2講義
木下 寛子（きのした ひろこ）
九州大学准教授

九州大学教育学部を卒業後、2017年に同大学大学院人間環境学府にて博士号取得。2020年、九州大学大学院人間環境学研究院に准教授として着任。現在まで学際プラットフォーム「九州大学人社系協働研究・教育コモンズ」に携わる。専門は環境心理学・教育環境学。学部2年生から九州北部の小学校およびその周辺地域のフィールドワークを通して事象を問う新たな方法論を提起。心理学の新しい形を作る知見として注目を集める。

私は実は臨床心理学に関心を持って九州大学に来ましたが、環境心理学という領域に進みました。あまり聞いた事がないと思います。ちっちゃな学問領域でして、学会をしても１００名も集まりません。九

オフィススペース空きあります。
入居者募集！
全国女性会館
〒150-0002 渋谷区渋谷1-17-14　TEL:03-3407-4301　FAX:03-3407-4305



JR・地下鉄銀座線渋谷駅
（宮益坂口から徒歩5分）
東急田園都市線・東横線渋谷駅・
地下鉄半蔵門線・副都心線渋谷駅
（地下出口20aかB1から徒歩3分）

大学生活世代、学生研究、講義内容、研究

いずれも素晴らしい内容でしたが、限りある誌面の関係上、講義内容の10分の1に満たないごく一部をご紹介します。

州大学はあえて文系の中に環境心理学を置いている珍しい大学です。

心理学の歴史を説明しますと、19世紀後半に生まれたわりと新しい学問です。実験室での人間の知覚・認知をめぐる法則性を検証することに重きを置いていました。心理学が１５０年で生んだものは、その「技術」「知見」が社会の形と人の経験（ものの見方）を変えたということです。一つに知能検査があり「年齢相応の能力」という見方を定着させました。発達の過程で、その年齢で獲得されるものの獲得が遅れると大問題だと感じるようになり、早く身につくとなぜか優越感を感じるようになりました。余談ですが知能検査は練習したら点数を伸ばすことができます。それで例えばＩＱ１２０を保証する保育園などといった謎の保育園が生まれたりしました。私たちの社会に知能検査や発達段階などの知識が非常に深く入り込んできたという表れです。

そうした心理学ですが、新しいかたち「意味を生きる人間に真正面から向かい合う」、苦しんだり喜んだり、迷ったり憧れたり、目標を見つけたり見失ったり、それから希望を見つけたりしてその時々に、人生の生きることの意味や生きていく人間を知る「心理学」を作ることができないか、というのが今の問いかけです。手がかりは身近なところにあります。ここにいる皆さんは、さっき私の話に「うん」と大きくうなずいてくれました。なんとなく、この場ではうなずいておいてあげたほうがいいかなとか、その優しさも私は分かるということも含めて。この分からないとか分かるとか、分かっているふりをしてでも何とかしたいことがあるというのは、まさに人間に備わっている方法です。「知る」力であり「知る」行為です。そこを突き詰めていくことで、新しい知の形を目指すことが、先ほどの心理学のもう一つの形です。私たちは理解して終わりではない。それに応えるということや、含み取って、汲み取って、次に生かすということになります。「理解」と「表現」という「もう一つの方法」が次の解釈学につながります。前からずっとやりたかったけどできなかった心理学を、「人間が生きる現場」で研究しようとする冒険が始まりました。意味も価値も、どこかで誰かと生きていくところに生まれるのだということが、環境心理学の方からもスタートしたというところです。

私は研究と言わずとも、心理学でやりたいことがありました。なんかよくわからないけど、人が生きるということに関わる何かがやりたかったのです。じゃあ、どこから始めるかとなった時に、人によってこの入り口はたくさんありますが、私は訪れている小学校の日常の「何が起こったのかわからない（すんなり理解できない）」出来事から始めました。私は２００１年６月から九州北部の小さな学校にボランティアで行っておりまして、毎週半日から１日程度小学校に居続けています。いろいろなところをブラブラする、居場所は決まっていません。できることがあれば何でもやるというのが基本です。６年の担任の先生が「木下さんって結局なんなのですか？」と飲み会で聞いてきますが、毎年卒業式の日に卒業生の教室に黒板アートを書くことで、深く追及されずにいます。

ある日、授業が始まっているのに教室に入ろうとして入れないでいる児童を見かけました。誰かが拒んだわけでもないけれど、当人は入れないと思い、教室に入るのをやめてしまう。その時に問題となっている「入れない経験」や「雰囲気」とは結局なんなのかについて考えました。雰囲気や教室の出入りが、学校を生きる人（子どもたちと先生たち）にとって大きなインパクトを持つことが見えてきました。例えば１年生が給食当番の白衣をうまく着られなくて泣きそうになる。６年生が忘れ物をしたことを職員室の先生に言いに行く時、不注意を咎められたらどうしようと怖くてノックができない。３年生がリコーダーのテストで順番が近づけば近づくほど練習したいけど、本番の子の演奏の邪魔になってしまうので、吹かずに指だけ動かして待っている。全校行事の長縄大会で、高学年の子たちが上手に跳んでいる横で、低学年の子が足を引っ張ることに対して緊張する。学校は典型的な授業場面だけで成り立ってはいないし、多くの人の鮮烈な経験は、勉強したことやその内容に限らない。いろいろなことが起きて、そこで子どもたちは挫けたり、笑ったり、感動したり、怒ったりしています。

学問の成果は典型的な「発見」「発明」「証明」というような言葉が彩ります。しかし、「あの人の経験ってこういうことだったのか」「そうだったかも」ということについての理解や納得や共感を導く知というのが、もう一つの知の可能性としてあります。「記述」や「表現」、絵、モデル、図面の形をとったりして人の経験を見えるようにすることが、今、追い求められています。役に立つということや実用性ということではなくて、「ひとりひとりのひとに読まれたり届いたりして初めて知（血肉）になる知」というものです。それが「役に立つ知」にとどまらない「共に現実を歩む知」です。

そうした時に重要な媒体というのが本ですが、ちょっと宣伝させてください。私の本ですけども『出会いと雰囲気の解釈学』。人社系の学術書っていうのは非常に、印刷数も少ない上に、増刷はまずないと言われています。ぜひお求めください。また、九州大学では「人社系協働研究・教育コモンズ」で年間６回学問の知の発信を行っています。こちらもぜひご覧ください。





「研究室内で肉が作られる？培養肉の取り組み紹介」
9月6日　第2講義
中村 真子（なかむら まこ）
九州大学副理事

日本女子大学理学部を卒業後、大阪大学大学院医学系研究修士課程に入学し、2002年、同大学大学院にて博士課程修了。米国研究機関で5年の研究活動を経て2007年に九州大学大学院農学研究院講師として着任。準教授を経て2022年に同研究院教授に就任。専門は筋細胞生物学、動物発生生物学等。ニワトリの解析モデル開発から、食肉細胞培養技術まで幅広い研究を展開。近年は研究結果の社会実装化にも注力。

私はずっと筋肉研究をしており、お肉を効率的に作るにはという視点から研究を展開しています。私は食べることが好きなので自分の研究成果が社会に還元されることを目標として研究を展開しています。本日は皆さんとこのようにお話できる機会をいただきありがとうございます。

まず少しだけ九州大学を紹介させていただきます。九州大学の学生数は大体１万８０００人、我々教員は約２０００人います。学生と教員比率は９：１になります。授業内容を学生へ一方通行で伝達するのではなく、学ぼうとしている学生の良きサポーターとなることが大学教員の役割です。そして「自ら能動的に学ぶ学生＝アクティブラーナー」を育てる事が目標です。

それでは本日はアクティブラーナーを育てる授業のように、皆さんに参加していただこうと思います。その勉強法として、シンク・ペア・シェア（Think-Pair-Share）法を用います。まず自分で考えるそして、隣の人たちとそれをシェアするそして、クラスルーム全体でシェアするという学びの方法です。さて皆さん、昨日はパーティーにご参加されたのですよね？何を食べましたか？お肉や、魚は？どんなタンパク質があったでしょうか？まずご自身で考えて（Think）その後５分間、隣や前後の方と、昨夜の食事のこと、好みの食べ物、食品を購入する際のこだわりなどを話し合ってください。

（中村先生と参加者のやりとり、食に関する情報をシェア）

ありがとうございます。皆さんやっぱりスーパーに行くと、まずお肉を買いますね。タンパク質は大事です。私たちの世代になると筋量はもう増えませんが、筋肉量を維持するためにタンパク質を取らないといけません。でもどうやってお肉は生産されているのかを考えたり話あったりしたことはあるでしょうか？今日は一緒に考えていきたいと思います。まず誰かが家畜を育てなくてはお肉を生産できません。そのための家畜飼料を育てる人もいます。屠畜し食肉とした後は、消費者のもとへ長距離輸送したり、より高い値段で売るために海外に輸出したりします。その工程がある事でさらにコストがかかり、温暖化ガスも出ます。という訳で、各国のいろんな問題が絡まりあった中で生産されたお肉が、皆さんがスーパーで手にしているものです。今後、今の食肉の生産方法で、お肉はいつまで食べられるのでしょうか。現在の方法はサステナブルに行くにはちょっと環境負荷が多すぎます。そこで家畜１頭からたくさんのお肉が回収できれば頭数は減らすことができるとの考えから、肉を増やす取り組みがすでに世界で行われています。皆さんベルジャンブルー種と言われるヨーロッパの牛をご存じでしょうか。お肉にあたる部分の筋肉は骨格筋と言われます。マッチョな人が筋トレで鍛えている筋肉と言えばわかりやすいでしょうか。通常、体の中で筋肉がある程度できるとストップをかける遺伝子が働いて体のバランスをとります。ベルジャンブルー種はその遺伝子が欠けているのでどんどんマッチョになります。そのため１頭から回収できるお肉の部位は多くなります。これも一つの方法です。それ以外に注目されている方法の一つが食肉細胞を研究室や工場で育てて商品化する培養肉研究です。培養肉自体は世界中で研究・実践されています。牛肉、鶏肉、マグロ、サーモン、フォアグラなど様々なものが作られています。酒蔵のようにタンクの中でお肉の細胞を育てています。イメージで言うとタピオカドリンクのタピオカが細胞で、タンクの中で増えたものをザルにあげて形を整えてお肉になるという感じです。この増やす細胞を屠畜時にいらなくなる部位から採取できないかと私達の研究グループは考えました。

クリスマスやお正月は家畜の屠畜量が増えます。人が集う時に肉の需要が増えよく売れるからですが、そうするとモツとよばれる内臓などの畜産副生物も増えます。私はこの畜産副生物を培養してお肉を作る「お肉プロジェクト」を進めています。鶏の内臓から培養肉の「種」となり、筋肉や軟骨、脂肪などに「分化」できる細胞を探す研究を進めています。

食肉生産に係る問題は世界の様々な要因が絡み合うため、研究者一人では解決できず、無力感を感じる時もあります。でも自分の子供世代もちゃんとお肉が食べられる環境を残してあげたいと思っています。それにはやはりまず問題を知ること、それから問題点を人と話すことが大切だと思います。そうしたムーブメントを推進できるのは私達女性ではないかと思います。ぜひご家族やご友人と世界の食肉問題についてThink-Pair-Shareしてください。

本日はありがとうございました。




見つめています。
未来の豊かな生活環境。
looking toward a future.
食品ロスを無くそう！
関東商事グループ
代表取締役 櫻井よう子
株式会社土浦関東商事
関東商事株式会社　有限会社総合整備　株式会社つくばESSA

いちばん東の海がふるさとです
HOKKAIDO HABOMAI
北海道・歯舞
全国女性団体連絡協議会公認昆布
歯舞早煮昆布（はぼまい やわらか）
皆さまが支えています
歯舞早煮昆布は、全女会が北方領土返還運動の一環として、北方領土で採れた貝殻島産棹前昆布を歯舞漁協で袋詰めしたものを全女会公認昆布として取扱いしております。
歯舞早煮昆布のご愛用
地域女性会の活動資金源
歯舞早煮昆布 200g巻タイプ
歯舞早煮昆布 200g切タイプ
歯舞漁業協同組合

事務局からのお知らせ



次世代リーダー研修9月6日第１講義（櫻井会長の後）の友近さんの講義内容は、紙面の関係上、次回以降の掲載とさせていただきます。

次回1月号は事務局、印刷所の年末年始休業のため、納品が1月18日（月）以降になります。また、1月号はページ数が倍になります。通常の機関紙の倍の量が届きますが、部数は通常と同じとなります。ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

現在、九州大学次世代リーダー研修感想集を作成中です。2024、2025年同様、一定数を各都道府県女性会(婦人会)にお届けする予定です。多くの冊数が必要な場合は、事前に事務局にご連絡ください。よろしくお願いいたします。

わたしたちは眠りません。
ガス漏れは見えぬからこそ警報器
しっかり見守ります！
交換期限の年 20XX年
ガス警報器工業会キャラクター ほあんほあん（保安保安）®
■ガス警報器　■CO 警報器　■住宅用火災・CO 警報器　■住宅用火災・ガス・CO 警報器　■業務用換気警報器
警報器の交換期限は5年です。
ガス警報器工業会　検索
ガス警報器工業会 https://www.gkk.gr.jp

LPガス 人と地球にスマイルを
＼正しく使おう、／
Life Power（ライフパワー）
LPガス。
安心安全なくらしを応援します。
美味しい料理でおうち時間もハッピータイム！
災害にも強いLPガス　http://www.lpg.or.jp/　LPガス安全委員会

『榊原郁恵芸能生活50周年記念公演』
2027年 1月7日（木）～24日（日）
【出演者】榊原郁恵、中村雅俊、ほか
【開演時間】昼の部12時／夜の部17時
【定価料金（税込）】
S席（1階席・2階席）14,000円
会員様 特別価格（税込）
S席12,600円

『赤ひげ』
2026年 12月6日（日）～22日（火）
【出演者】船越英一郎、岩橋玄樹、丹生明里、佐藤友祐、ほか
【開演時間】昼の部12時／夜の部17時
【定価料金（税込）】
（平日）S席（1階席・2階席）14,000円
（土・日）S席（1階席・2階席）15,000円
会員様 特別価格（税込）
平日 S席12,600円　土・日 S席13,500円

明治座
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1
受付時間 平日9:00～17:00
【フリーダイヤル】
0120-64-3800
※混雑状況によっては、御希望の日程でお席をご用意出来ない場合もございますので予めご了承ください。

あなたが輝ける場所へ。
茨城県 人材派遣 労働大臣許可第１号
Environmental（エンヴァイロンメンタル（環境））Scientific（サイエンティフィック（科学））Service（サービス（業務））Administration（アドミニストレイション（管理））
株式会社つくばESSA（エッサ）
☎029-836-3636 Fax029-838-1301
305-0062 茨城県つくば市赤塚616-1

ゴミを減らそう
有限会社総合整備
〒305-0062
茨城県つくば市赤塚 616-1
Tel.029-836-3686
Fax.029-838-2117

生物の持つ働きを人々の暮らしに役立てる
つくばバイオ株式会社
〒305-0006 茨城県つくば市赤塚423
Tel.Fax. 029-838-0298